

HA8000 シリーズ

Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド Log Monitor Logger 機能

FASTFIND LINKS

[ドキュメント構成](#)

[お問い合わせ先](#)

[目次](#)

ソフトウェア使用上の注意

お客様各位

株式会社 日立製作所

このたびは日立アドバンストサーバをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

下記の「ソフトウェアの使用条件」を必ずお読みいただきご了解いただきますようお願いいたします。

ソフトウェアの使用条件

1. ソフトウェアの使用

このソフトウェアは、特定の1台の日立アドバンストサーバシステムでのみ使用することができます。

2. 複製

お客様は、このソフトウェアの一部または全部の複製を行わないでください。ただし、下記に該当する場合に限り複製することができます。

お客様がご自身のバックアップ用、保守用として、1項に定める1台の日立アドバンストサーバシステムで使用する場合に限り複製することができます。

3. 改造・変更

お客様によるこのソフトウェアの改造・変更は行わないでください。万一、お客様によりこのソフトウェアの改造・変更が行われた場合、弊社は該当ソフトウェアについてのいかなる責任も負いません。

4. 第三者の使用

このソフトウェアを譲渡、貸出、移転その他の方法で、第三者に使用させないでください。

5. 保証の範囲

- (1) 万一、媒体不良のために、ご購入時に正常に機能しない場合には、無償で交換いたします。
- (2) このソフトウェアの使用により、万一お客様に損害が生じたとしても、弊社は責任を負いません。あらかじめご了承ください。

以上

目次

目次	iii
お使いになる前に	v
重要なお知らせ	vi
規制・対策などについて	vi
登録商標・商標	vi
著作権について	vi
文書来歴	vii
ドキュメント構成	viii
オペレーティングシステム(OS)の略称について	x
凡例	xi
お問い合わせ先	xii
安全にお使いいただくために	xv
Logger の概要	1-1
概要	1-2
用語	1-2
機能	1-2
動作に必要なシステム環境	1-5
要求リソース	1-5
前提ソフトウェア	1-6
制限事項	1-6
使用上の注意事項	1-7
Logger のインストール	2-1
インストール	2-2
アップグレード	2-8
アンインストール	2-8

Logger の操作方法	3-1
バージョン確認方法	3-2
動作確認方法	3-2
環境設定画面の説明	3-3
付録	A-1
アラート一覧	A-2
メッセージ一覧	A-3
サービス一覧	A-6
インストールフォルダ構成	A-6
アラート再通知発生時の対応	A-7
頭字語と略語	B-1

お使いになる前に

このマニュアルは、弊社サーバ製品を使用する前に、知っておいていただきたい内容について説明しています。製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み十分理解してください。このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

この章の内容は以下の通りとなっています：

- ☐ [重要なお知らせ](#)
- ☐ [規制・対策などについて](#)
- ☐ [登録商標・商標](#)
- ☐ [著作権について](#)
- ☐ [文書来歴](#)
- ☐ [ドキュメント構成](#)
- ☐ [オペレーティングシステム（OS）の略称について](#)
- ☐ [凡例](#)
- ☐ [お問い合わせ先](#)
- ☐ [安全にお使いいただくために](#)



弊社サーバ製品の使用は、弊社とのお客様の契約の条件によって決定されます。

重要なお知らせ

- 本書の内容の一部、または全部を無断で転載したり、複写することは固くお断わりします。
- 本書の内容について、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- 本書に準じないで本製品を運用した結果については責任を負いません。あらかじめご了承ください。

規制・対策などについて

輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明の場合は弊社担当営業にお問い合わせください。

海外での使用について

本製品は日本国内専用です。国外では使用しないでください。なお、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており、本製品は適合していません。

登録商標・商標

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Red Hat は、米国およびその他の国における Red Hat Inc.の商標または登録商標です。

その他、本マニュアル中の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

著作権について

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で記載することは禁じられています。

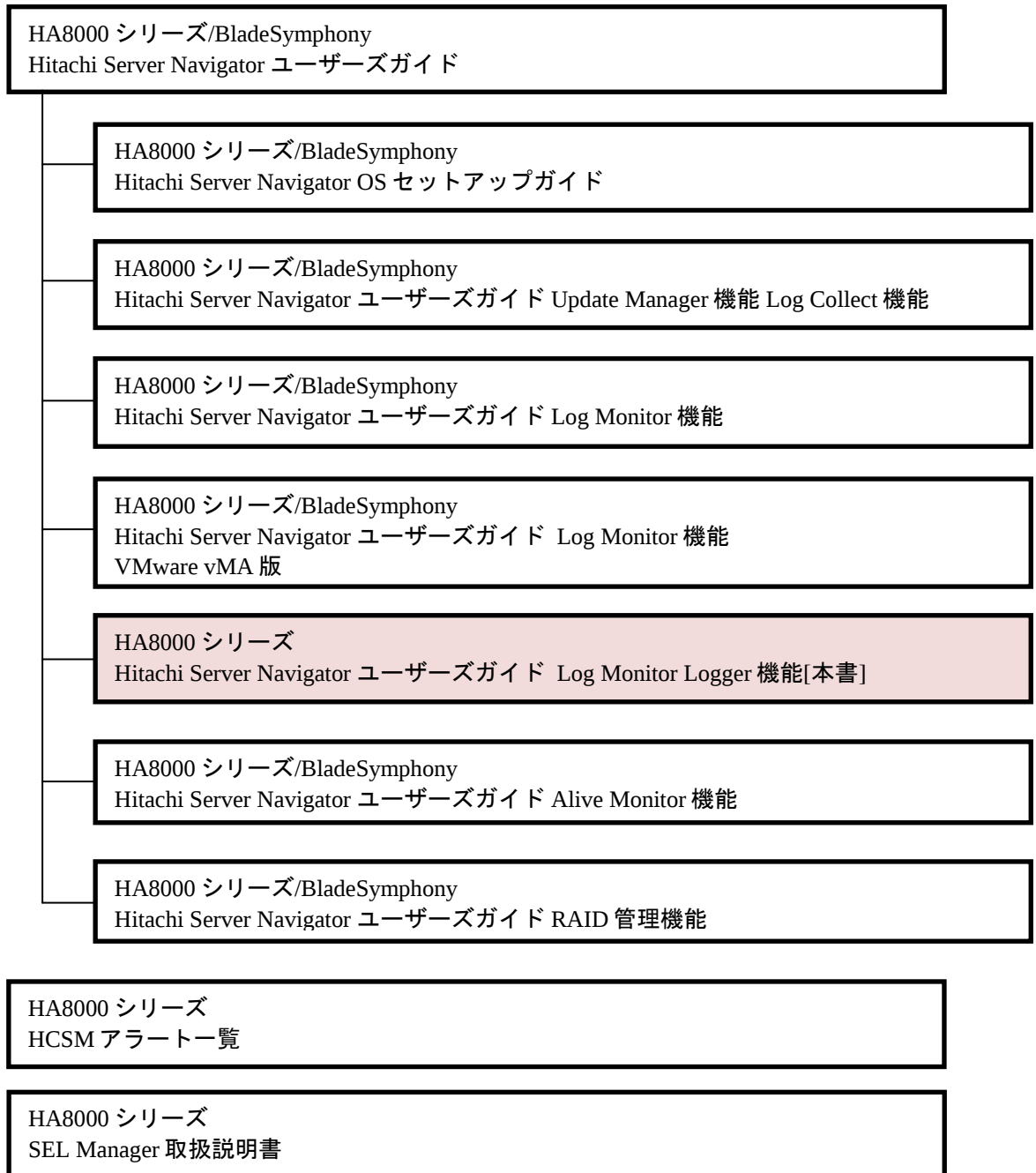
Copyright © Hitachi, Ltd. 2014. All rights reserved.

文書来歴

改訂	年月日	説明
SNV-2-LO_1	2014 年 9 月	初版
SNV-2-LO_2	2014 年 12 月	サポート OS に Windows Server 2008 を追加 サポート機種を HA8000xM モデル以降（RS440xM を除く）に変更 JP1/ServerConductor/Agent に関する制限事項、注意事項を追加 ディスク占有量を変更

ドキュメント構成

関連ドキュメント



本ドキュメントの構成

このドキュメントの内容と構成の概要を下記表に示します。各章のタイトルをクリックすることで、各章を参照することができます。

章/付録	説明
Chapter 1, Logger の概要	この章では、Hitachi Server Navigator – Log Monitor Logger の概要について説明します。
Chapter 2, Logger のインストール	この章では、Hitachi Server Navigator – Log Monitor Logger のインストール方法およびアンインストール方法について説明します。
Chapter 3, Logger の操作方法	この章では、Hitachi Server Navigator – Log Monitor Logger の操作方法について説明します。
Appendix, 付録	この付録では、メッセージなどについて説明します。

オペレーティングシステム(OS)の略称について

本マニュアルでは、次の OS 名称を省略して表記します。

- Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2012 R2 Datacenter または Windows Server 2012 R2)
- Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard 日本語版
(以下 Windows Server 2012 R2 Standard または Windows Server 2012 R2)
- Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2012 Datacenter または Windows Server 2012)
- Microsoft® Windows Server® 2012 Standard 日本語版
(以下 Windows Server 2012 Standard または Windows Server 2012)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2 Standard または Windows Server 2008 R2)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2 Enterprise または Windows Server 2008 R2)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2 Datacenter または Windows Server 2008 R2)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 32-bit 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Standard x86 または Windows Server 2008)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 32-bit 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Enterprise x86 または Windows Server 2008)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 32-bit 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Datacenter x86 または Windows Server 2008)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Standard x64 または Windows Server 2008)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Enterprise x64 または Windows Server 2008)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Datacenter x64 または Windows Server 2008)

凡例

弊社サーバ製品の用語は特に明記がない場合、弊社サーバ製品すべてのモデルで使用されています。このドキュメントで使用されている記号は以下の通りです。

記号	説明
太字	メニュー、オプション、ボタン、フィールドおよびラベルを含めて、ウィンドウ・タイトル以外に表示される内容を示します。 例: Click OK .
イタリック体	ユーザまたはシステムによって提供される変数を示します。 例: copy <i>source-file target-file</i> 通知: "<>" も変数を示すために使用されます。
画面/コマンドライン	画面に表示またはユーザによって入力する内容を示します。 例: # pairdisplay -g oradb
< >	ユーザまたはシステムによって提供される変数を示します。 例: # pairdisplay -g <group> 通知: イタリック体のフォントも変数を示すために使用されます。
[]	オプションの値を示します。 例: [a b] a、b または入力なしのどれかを選択することを示します。
{ }	必要な値あるいは予期された値を示します。 例: { a b } a または b のどちらかを選択することを示します。
	2 つ以上のオプションあるいは引数から選択できることを示します。 例: [a b] a、b または入力なしのどれかを選択することを示します。 { a b } a または b のどちらかを選択することを示します。
アンダーライン	デフォルト値を示します。例: [<u>a</u> b]

このドキュメントは、注意すべき情報に対して次のアイコンを使用しています:

アイコン	意味	記述
 警告	警告	死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 注意	注意	軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
通知	通知	人身傷害とは関係のない損害を引き起こすおそれのある場合に用います。
 制限	制限	本製品の故障や障害の発生を防止し、正常に動作させるための事項を示します。
 補足	補足	本製品を活用するためのアドバイスを示します。

お問い合わせ先

HA8000 にて使用時のお問い合わせ先

技術情報、アップデートプログラムについて

HA8000 ホームページで、技術情報、ドライバやユーティリティ、BIOS/EFI、ファームウェアなどのアップデートプログラムを提供しております。本ユーティリティでアップデートに対応していない場合やトラブルシューティングが必要となります。[ダウンロード]をクリックしてください。

■ HA8000 ホームページアドレス : <http://www.hitachi.co.jp/ha8000>

各アップデートプログラムの適用はお客様責任にて実施していただきますが、システム装置を安全にご使用いただくためにも、定期的にホームページにアクセスして、本ユーティリティを使用して最新のドライバやユーティリティ、BIOS/EFI、ファームウェアへ更新していただくことをお勧めいたします。

障害等の保守作業で部品を交換した場合、交換した部品の BIOS/EFI、ファームウェアは原則として最新のものが適用されます。また保守作業時、交換していない部品の BIOS/EFI、ファームウェアも最新のものへ更新する場合があります。

なお、お客様による BIOS/EFI、ファームウェアアップデート作業が困難な場合は、有償でアップデート作業を代行するサービスを提供いたします。詳細はお買い求め先にお問い合わせください。

操作や使いこなしについて

本製品のハードウェアについての機能や操作方法に関するお問い合わせは、HCA センタ（HITAC カスタマ・アンサ・センタ）でご回答いたしますので、次のフリーダイヤルにおかけください。受付担当がお問い合わせ内容を承り、専門エンジニアが折り返し電話でお答えするコールバック方式をとらせていただきます。

HCA センタ（HITAC カスタマ・アンサ・センタ）

 **0120-2580-91**

受付時間

9:00~12:00/13:00~17:00（土・日・祝日、年末年始を除く）

お願い

■ お問い合わせになる際に次の内容をメモし、お伝えください。お問い合わせ内容の確認をスムーズに行なうため、ご協力をお願いいたします。

形名（TYPE）／製造番号（S/N）／インストール OS／サービス ID（SID）

「形名」、「製造番号」および「サービス ID」は、システム装置前面に貼り付けられている機器ラベルにてご確認ください。

- 質問内容を FAX でお送りいただくこともありますので、ご協力をお願いいたします。
- HITAC カスタマ・アンサ・センタでお答えできるのは、製品のハードウェアの機能や操作方法などです。ハードウェアに関する技術支援や、OS や各言語によるユーザープログラムの技術支援は除きます。

ハードウェアや OS の技術的なお問い合わせについては有償サポートサービスにて承ります。詳細は、「[技術支援サービスについて](#)」(P.xiii)をご参照ください。

- 明らかにハードウェア障害と思われる場合は、販売会社または保守会社にご連絡ください。

欠品・初期不良・故障について

本製品の納入時の欠品や初期不良および修理に関するお問い合わせは日立コールセンタにご連絡ください。

日立コールセンタ



0120-921-789

受付時間

9:00～18:00（土・日・祝日、年末年始を除く）

お願い

- お電話の際には、製品同梱の保証書をご用意ください。
- Web によるお問い合わせは次へお願いします。
https://e-biz.hitachi.co.jp/cgi-shell/qa/rep_form.pl?TXT_MACTYPE=1

技術支援サービスについて

ハードウェアやソフトウェアの技術的なお問い合わせについては、技術支援サービスによる有償サポートとなります。

日立統合サポートサービス「日立サポート 360」

ハードウェアと、Windows や Linux などの OS を一体化したサポートサービスをご提供いたします。

詳細は次の URL で紹介しています。

- ホームページアドレス

<http://www.hitachi.co.jp/soft/symphony/>

インストールや運用時のお問い合わせや問題解決など、システムの円滑な運用のためにサービスのご契約をお勧めします。

HA8000 問題切分支援・情報提供サービス

ハードウェアとソフトウェアの問題切り分け支援により、システム管理者の負担を軽減します。
詳細は次の URL で紹介しています。

■ ホームページアドレス

<http://www.hitachi.co.jp/soft/HA8000/>

運用時の問題解決をスムーズに行なうためにサービスのご契約をお勧めします。

なお、本サービスには OS の技術支援サービスは含まれません。OS の技術支援サービスを必要とされる場合は「日立サポート 360」のご契約をお勧めします。

安全にお使いいただくために

安全に関する注意事項は、下に示す見出しによって表示されます。これは安全警告記号と「警告」、「注意」および「通知」という見出し語を組み合わせたものです。



これは、安全警告記号です。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するために、このシンボルのあとに続く安全に関するメッセージに従ってください。



警告

これは、死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。



注意

これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

通知

これは、人身傷害とは関係のない損害を引き起こすおそれのある場合に用います。



【表記例 1】感電注意

▲の図記号は注意していただきたいことを示し、▲の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。



【表記例 2】分解禁止

○の図記号は行なってはいけないことを示し、○の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。

なお、○の中に絵がないものは、一般的な禁止事項を示します。



【表記例 3】電源プラグをコンセントから抜け

●の図記号は行なっていただきたいことを示し、●の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。

なお、! は一般的に行なっていただきたい事項を示します。

安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

- 操作は、このマニュアル内の指示、手順に従って行なってください。
- 本製品やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。
- 本ソフトウェアをインストールするシステム装置のマニュアルを参照し、記載されている注意事項は必ず守ってください。

これを怠ると、人身上の傷害やシステムを含む財産の破損を引き起こすおそれがあります。

安全にお使いいただくために（続き）

操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行なわないでください。
本製品について何か問題がある場合は、お買い求め先にご連絡ください。

自分自身でもご注意を

本製品やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を超えた事態が起こることが考えられます。操作に当たっては、指示に従うだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。

製品の損害を防ぐための注意

本製品の取り扱いにあたり次の注意事項を常に守ってください。



本製品のインストールについて

本製品は、本製品の動作をサポートしているシステム装置でご使用ください。それ以外のシステム装置にインストールすると、システム装置の仕様の違いにより故障の原因となります。サポート有無については、システム装置のマニュアルなどでご確認ください。

本マニュアル内の警告表示



警告

本マニュアル内にはありません。



注意

本マニュアル内にはありません。

通知

本マニュアル内にはありません。

Logger の概要

この章では、Hitachi Server Navigator - Log Monitor Logger (以後、Logger と表記)の概要について説明します。

- ☐ [概要](#)
- ☐ [用語](#)
- ☐ [機能](#)
- ☐ [動作に必要なシステム環境](#)
- ☐ [要求リソース](#)
- ☐ [前提ソフトウェア](#)
- ☐ [制限事項](#)
- ☐ [使用上の注意事項](#)

概要

Logger は Hitachi Server Navigator の一つの機能で、システム装置の障害などを OS のイベントログに記録し、HA8000 の運用を支援するアプリケーションです。

用語

本ドキュメントでは、各用語を次のように定義します。

- アラート：
システム装置で発生したエラーなどの情報です。Logger が、アラートを検知することで、システム装置の障害を早期に対処できます。

機能

Logger は、システム装置で発生した障害を検出した場合、またはハードウェア資源の使用率がしきい値を超過した場合に OS のイベントログに出力する機能を持つユーティリティソフトウェアです。

システム装置の障害検出

Logger は、システム装置(BMC)を定期監視し、障害を検出した場合に OS のイベントログにイベントを出力します。

- [システム装置の障害検出](#) (P.1-3)

ハードウェア資源の使用率超過検出

Logger は、ハードウェア資源(CPU、メモリ、ディスク)の使用率を監視し、ある一定のしきい値に到達したときに、OS イベントログにイベントを出力します。

- [ハードウェア資源の使用率超過検出](#) (P.1-4)

Logger は、インストール時点では無効に設定されています。Logger を使用するときには有効に設定する必要があります。

設定方法は「[環境設定画面の説明](#)」(P.3-3)を参照してください。

システム装置の障害検出

Logger はシステム装置で発生した障害（アラート）を検出し、OS のイベントログにイベントを記録することでシステム管理者にアラートを通知します。

システム装置で発生したアラートは、イベントログにアプリケーションログとして記録します。記録したアプリケーションログは、ほかのアプリケーションで利用できます。

アプリケーションログに記録される情報

この機能では、アラートが発生するとアプリケーションログに次の情報が記録されます。

ソース

プログラム名 SM_AgtSvc が記録されます。この値は固定です。

イベント ID

Logger のアラート ID が記録されます。表示は 10 進数となります。

レベル

アラートのレベルが記録されます。記録されるアラートレベルの表示は、次のようになります。

記録されるアラートレベル	Logger のアラートレベル
情報	情報
警告	警告
エラー	障害

ユーザー

未使用を意味する N/A が記録されます。

分類（カテゴリ）

イベントビューアには項目がありますが、Logger ではこの情報は記録されません。

説明

アラート発生日時、アラートレベル、アラートのメッセージが記録されます。

ハードウェア資源の使用率超過検出

Logger はシステム装置の CPU、メモリ、ディスクの使用率がある一定のしきい値に到達したとき、次の使用率の算出方法にて OS のイベントログにアラートを通知します。

使用率の算出方法

この機能では、使用率のチェック間隔とサンプリング回数から、使用率が求められます。まず、指定したチェック間隔で使用率を取得します。その平均値がしきい値に到達した場合、アラートを通知します。

平均値は、サンプリングを開始した基点からチェック間隔の時間毎に採取した回数分の使用率から算出します。一度平均値が算出されると、サンプリングの基点は次の使用率取得時点に更新され、次回は新しい基点から回数分の使用率で平均値を算出します。

例えば、CPU の使用率について、次の条件でアラートを通知する設定とします。

- ・ アラートを通知する使用率の値：50%
- ・ 使用率のチェック間隔：10 秒
- ・ 使用率算出のためのサンプリング回数：3 回

この場合、10 秒間隔で使用率を 3 回取得し、その直近 3 回の平均値が 50% に到達した場合にアラートが通知されます。

動作に必要なシステム環境

サポート機種／サポート OS

Logger は、以下の条件を満たす環境で動作します。

項目	仕様
サポート機種	HA8000/xM モデル以降（RS440xM を除く）
サポート OS	Windows Server 2012 R2 Standard Windows Server 2012 R2 Datacenter Windows Server 2012 Standard Windows Server 2012 Datacenter Windows Server 2008 R2 Standard Windows Server 2008 R2 Enterprise Windows Server 2008 R2 Datacenter Windows Server 2008 Standard x86 Windows Server 2008 Enterprise x86 Windows Server 2008 Datacenter x86 Windows Server 2008 Standard x64 Windows Server 2008 Enterprise x64 Windows Server 2008 Datacenter x64



上記の環境において、OS 標準 IPMI ドライバ(IPMIDRV)が動作している必要があります。



仮想環境には対応していません。

要求リソース

Logger のメモリ所要量およびディスク占有量について説明します。

項目	仕様
メモリ所要量	約 86MB
ディスク占有量(※1)	約 6MB(インストール容量) + 約 39MB(最大ログ容量)

※1 Logger のインストールフォルダについては、「付録 [インストールフォルダ構成](#)」(P.A-6)を参照してください。

前提ソフトウェア

なし。

制限事項

ここでは、Logger を使用する前に知っておいていただきたい制限事項を説明します。

- Logger は、JP1/ServerConductor 製品と機能が競合するため、JP1/ServerConductor 製品と同一装置内にインストールしないでください。以下の JP1/ServerConductor 製品が排他製品の対象に該当します。

- JP1/ServerConductor/Blade Server Manager (以後、BSM と表記)
- JP1/ServerConductor/Agent (以後、Agent と表記)

Logger がインストールされている環境に、後から BSM をインストールしてしまった場合、Logger、BSM の順でアンインストールを実施し、再度環境を構築してください。

なお、後から Agent を同一装置内にインストールすることはできません。次のメッセージが表示されますので、下線部を Logger に読み替えてください。

”JP1/ServerConductor のインストールを行うには System Manager または ServerConductor 製品 のアンインストールと、コンピュータの再起動が必要です。”

- Logger のアンインストーラは、インストール時に指定したフォルダ(初期設定は、64bit OS の場合、“C:\Program Files (x86)\Hitachi”、32bit OS の場合、“C:\Program Files\Hitachi”)下に作成した Logger フォルダ以下のすべてを削除します。本製品をアンインストールする場合は、予めフォルダ内のファイルが削除されても支障がないことを確認してください。

使用上の注意事項

ここでは、Logger を使用する場合の注意事項を説明します。

- Logger と JP1/ServerConductor/Agent は、インストールフォルダ構成やサービス名称が類似しているため、Logger がインストールされていることを区別するためには、「[バージョン確認方法](#)」(P.3-2)を参照してください。
- 環境設定ユーティリティを起動し OK 応答した場合、Logger の各サービスが再起動します。このため、環境設定ユーティリティの起動を連続して実行せず、起動までに 5 分程時間をあけてください。
- OS をアップデートする場合は、いったん Logger をアンインストールして OS のアップデート後に再インストールするか、または OS のアップデート後に Logger を更新インストールしてください。
- スタートメニューに登録されていないプログラムを「エクスプローラ」や「ファイル名を指定して実行」から実行しないでください。
実行した場合、各ユーザの VirtualStore フォルダ
([SystemVolume]:\Users\[UserName]\AppData\Local\VirtualStore\)以下に、フォルダおよびファイルが生成される場合があります。これらのファイルは、本製品の動作には影響しません。ファイルが生成された場合は、実行したプログラムを終了させたあとに VirtualStore 以下に生成された\Program Files\HITACHI\Logger 以下のフォルダおよびファイルを削除してください。
- ハードウェア資源の使用率超過検出機能で CPU、ドライブまたはメモリの使用率を監視する場合、使用率がしきい値を超過したままの状態が継続すると、イベントログに記録するアラートが蓄積され、以下のプロセスのメモリ所要量が増加することがあります。
- SmAgent.exe
- SmAgtProvider.exe
また、この状態が長時間継続することでメモリ不足となり、上記のプロセスが異常終了することがあります。使用率超過のアラートが断続して通知されないように運用してください。
- インストール実行中にインストーラのウィンドウ画面を移動すると、インストーラのダイアログが画面の外に表示され、操作できなくなる場合があります。インストール実行中は、インストーラのウィンドウ画面を移動しないでください。
- インストール実行中に mfc42.dll 等共通モジュールの上書き確認メッセージが表示される場合があります。この場合、「いいえ」で応答してください。
インストールが終了しマシンを再起動させた後、再インストールしてください。
- インストール実行時、ファイルコピーのダイアログが表示された以降に「キャンセル」ボタンを押してインストールを中止するとインストール先にコピーしたファイルが残る場合があります。
ファイルコピー開始後は、「キャンセル」ボタンを押すことなくインストールを完了させてください。また、ファイルコピーのダイアログが表示された以降に「キャンセル」ボタンを押してしまった場合は、再度インストーラを実行してインストールを完了させてください。
- インストール先フォルダは、170 バイト以内の長さで指定してください。

- インストール実行時、新規にインストール先フォルダを作成したあと、インストール先フォルダを変更してインストールすると、前回作成したフォルダが残ります。空のフォルダが残りますが、動作上問題ありません。不要な場合は、空のフォルダは削除してください。
- インストール時に、システム環境変数 Path に 1024 バイト以上の文字列が設定されている、またはインストール後にシステム環境変数 Path が 1024 バイト以上の文字列が設定されると、環境変数に 1024 文字以上の文字列を設定できるバージョンの OS であっても、本製品のインストール時に必要なパスがシステム環境変数 Path に追加されず、インストールが正常終了します。
[対処方法]
本製品をインストールした後、システム環境変数 Path に次のパスが設定されているかどうかを確認し、設定されていない場合には追加してください。
<Logger インストール先フォルダ (※)>\PROGRAM
※デフォルトのインストールフォルダは、
64bit OS の場合、"C:\Program Files (x86)\Hitachi\Logger"
32bit OS の場合、"C:\Program Files\Hitachi\Logger"
です。
- 本製品は、システム時刻の変更に対応しておりません。
時刻変更が必要な場合、別途 NTP サービスの slew モードで時刻調整をしていただくか、次の手順を実施してください。
(a) 時刻が進む場合
1. 次の順にサービスを停止する。
 ・ SM_AgtSvc
 ・ SM_AgtProvider
2. 時刻を修正する。
3. 次の順にサービスを開始する。
 ・ SM_AgtProvider
 ・ SM_AgtSvc
(b) 時刻が戻る場合
本製品使用中に時刻を戻されると、プログラムが内部のデータ管理を正しくできない場合※があります。
時刻を戻す必要がある場合は、本製品のアンインストールおよび再インストールをしてください。
※時刻を戻すことによって以下の事象が発生する場合があります。
 ・ 通信エラーが発生する
 ・ 不正なデータ(更新されてないデータ)が表示される
 ・ 機能実行中にエラーが発生する
- タイムゾーンを変更する場合、サマータイムの有無によって次の注意事項があります。
サマータイムが有効の場合、本製品は対応しておりません。サマータイムが無効の場合は、上記のシステム時刻の変更手順を参考にタイムゾーン、およびシステム時刻を変更してください。
- 本製品は、slew モードで運用されている NTP サービス(1 秒未満の時刻補正を繰り返すことで、少しずつ時刻を調整するサービス)の時刻調整に対応しています。(slew モード以外の NTP サービスには対応していません。)

- 本製品は、閏秒、閏年に対応しています。
- Logger を起動する際に、障害情報読み込み処理でエラーが発生し、ハードウェアの障害監視ができない状態になる場合があります。この事象が発生するとハードウェアの障害がイベントログに記録されません。この状態を放置しないためには、イベントログに出力されるアラート ID" 64022(0xFA16)"をイベントログで監視してください。このアラートが発生した場合の対処は、[アラート一覧](#)(P.A-2)を参照してください。

Logger のインストール

この章では、Logger のインストール方法およびアンインストール方法について説明します。

- [インストール](#)
- [アップグレード](#)
- [アンインストール](#)

インストール

Logger のインストール方法について説明します。

- [Logger をインストールする](#) (P.2-2)

Logger をインストールする

Logger のインストール方法について説明します。



本製品は、HITACHI SEL Manager と共存できません。HITACHI SEL Manager がインストールされている場合、本製品のインストール時に HITACHI SEL Manager を停止します。また、本製品をインストール後に HITACHI SEL Manager をインストールしないでください。

1. Windows を立ち上げ、"Administrator" でログオンします。
2. インストーラパッケージを日立ダウンロードサイトまたは、機器添付の"Hitachi Server Navigator DVD"から入手してください。
"Hitachi Server Navigator DVD"から入手する場合は、メディア内の「Support.html」より対象装置、対象 OS 用のユーティリティー覧を選択し「Hitachi Server Navigator – Log Monitor Logger」の格納場所を参照してください。
3. 「Logger」をインストールします。
インストーラパッケージ内の次のファイルを実行してください。
\\DISK1\\setup.exe

4. "ようこそ" 画面が表示されたら「次へ」ボタンをクリックします。



5. "ユーザーの情報" 画面が表示されたら、名前と会社名を指定し、「次へ」ボタンをクリックします。



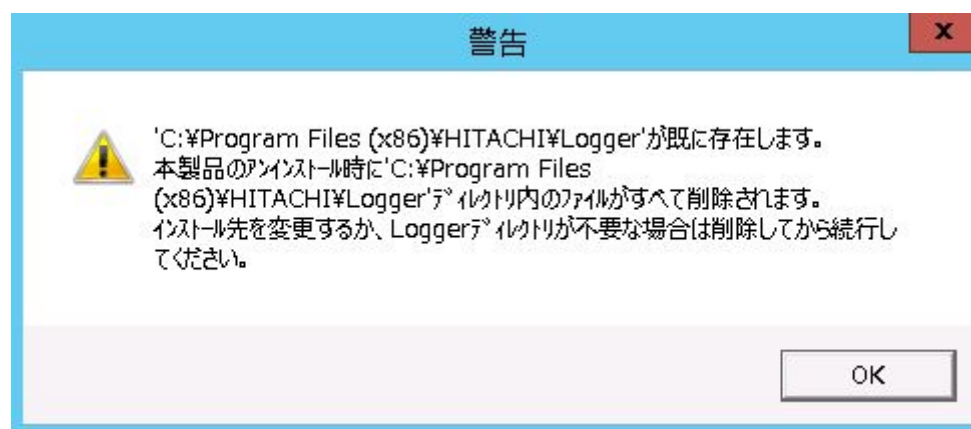
6. "インストール先の選択" 画面が表示されたら、インストール先ディレクトリを指定し、「次へ」ボタンをクリックします。



補足

実際にインストールされるフォルダは、指定したフォルダの下に作られる"Logger"です。インストール時に"Logger"が存在する場合、次のダイアログが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

メッセージに従って、対処の上、再度インストール先の選択を実施してください。



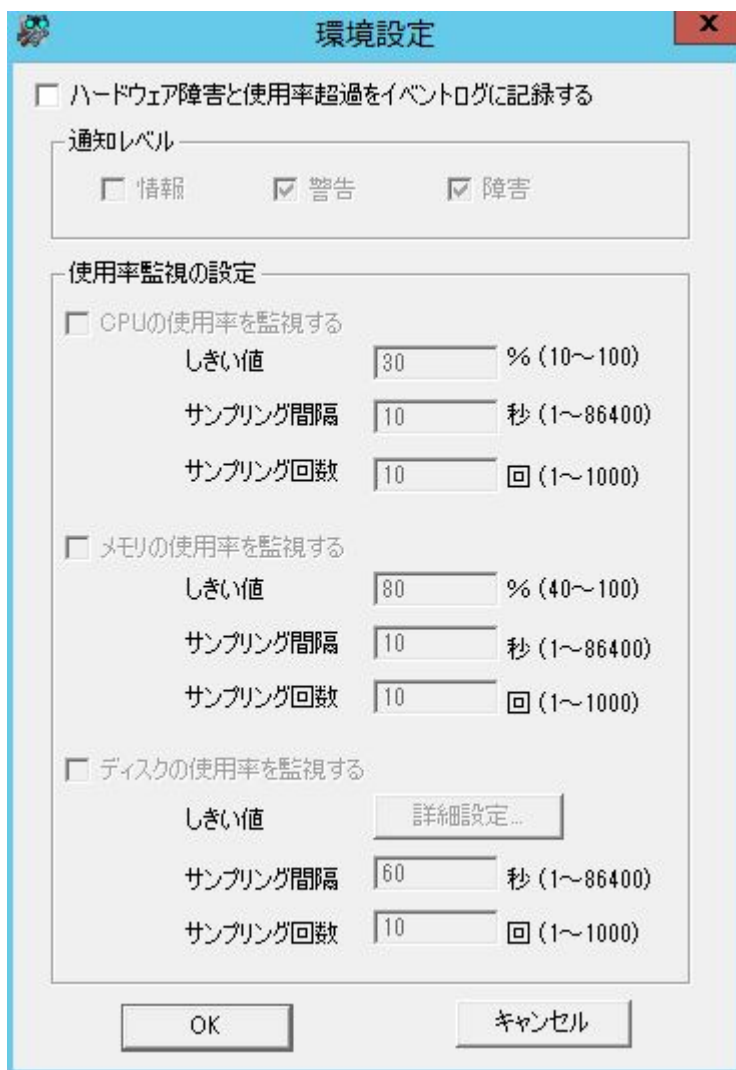
7. "プログラムフォルダの選択"画面が表示されたら、プログラム フォルダを指定し、「次へ」ボタンをクリックします。



8. "ファイルコピーの開始" 画面が表示されたら「次へ」ボタンをクリックします。



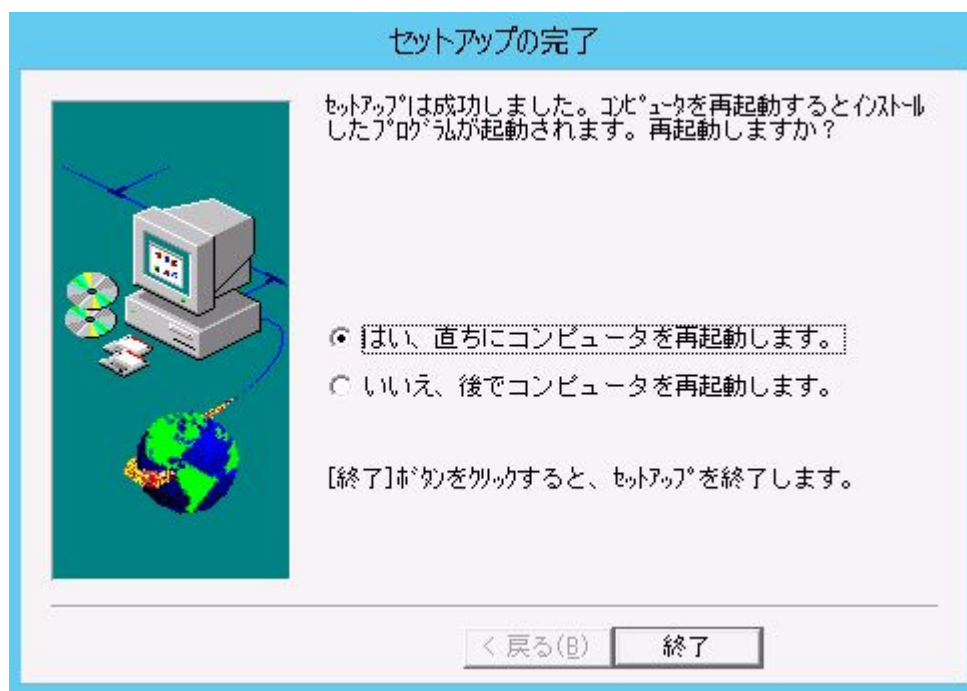
9. インストールが完了すると "環境設定" 画面が表示されますので、Logger の環境設定を実行し、「OK」ボタンをクリックします。



・・・
補 足

Logger の環境設定は、インストール終了後にも実施することができます。
"環境設定"の起動や画面の設定内容については、「[環境設定画面の説明](#)」(P.3-3)を参照してください。

10. 次のダイアログが表示されたら「はい」を選択し、「終了」ボタンをクリックします。



…
補足

Logger のインストール終了時は、必ず再起動を実行してください。

以上で Logger のインストールは終了です。

アップグレード

Logger のアップグレード方法について説明します。

- [Logger をアップグレードする](#) (P.2-8)

Logger をアップグレードする

Logger のアップグレードは、「[Logger をインストールする](#)」(P.2-2)と同じ手順を実行してください。



Logger のダウングレードはできません。ダウングレードをしたい場合は、一旦アンインストールの上、インストールして下さい。



アップグレードを実施した場合、プログラムフォルダの選択を求めるダイアログが表示される場合があります。この場合、プログラムフォルダには前回インストール時と同じプログラムフォルダを選択してください。

アンインストール

Logger のアンインストール方法について説明します。

- [Logger をアンインストールする](#) (P.2-8)

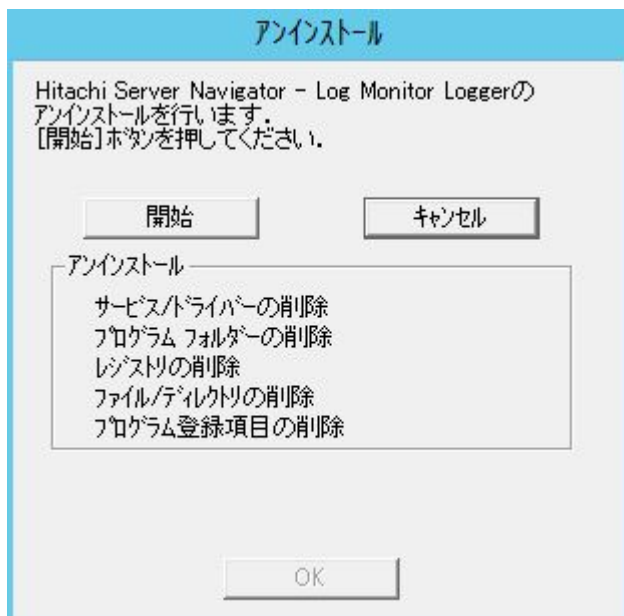
Logger をアンインストールする

Logger のアンインストール方法について説明します。

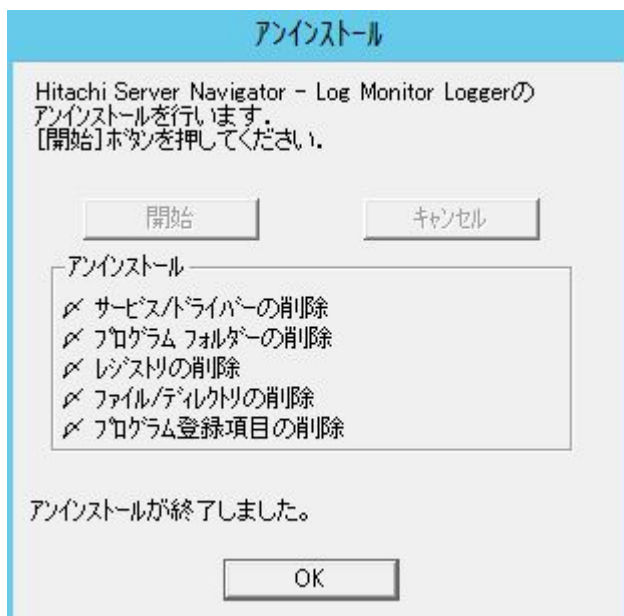


Windows の「プログラムと機能」には「log monitor logger」が表示されます。

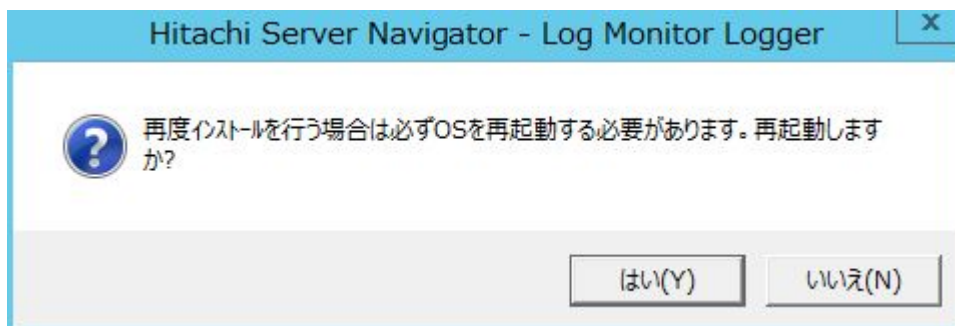
1. Windows を立ち上げ、"Administrator" でログオンします。
2. コントロールパネルの「プログラムと機能」を開きます。
3. 「log monitor logger」を選択して、ダブルクリックします。
4. 次のダイアログが表示されたら「開始」ボタンをクリックします。



5. アンインストールが完了したら、「OK」ボタンをクリックします。



6. 次のダイアログが表示されたら「はい」ボタンをクリックします。



以上で Logger のアンインストールは終了です。



アンインストール後、"[Logger インストールフォルダ]\program"フォルダにファイルが残ることがあります。
この場合、システム再起動後に手動でファイルを削除してください。

Logger の操作方法

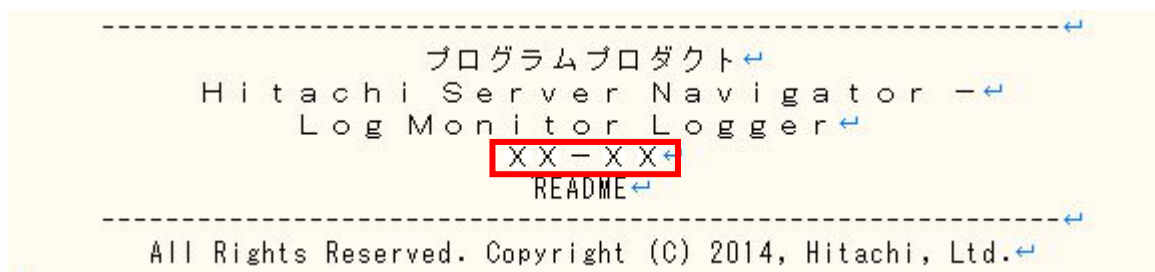
この章では、Logger の操作方法について説明します。

- [バージョン確認方法](#)
- [動作確認方法](#)
- [環境設定画面の説明](#)

バージョン確認方法

Logger のバージョン確認方法について説明します。

1. エクスプローラを開きます。
2. インストール先フォルダに移動します。
インストール先フォルダとは、インストール時に指定したフォルダの下に"Logger"を付与した 場所です。(デフォルト設定では、64bit OS の場合"C:\Program Files (x86)\Hitachi\Logger"、32bit OS の場合"C:\Program Files\Hitachi\Logger"となります。)
3. 移動したフォルダに存在する README ファイルを開きます。
README ファイルに記載されている赤枠部分がバージョン情報です。



動作確認方法

Logger をインストール後の動作確認方法について説明します。

1. サービスのプロパティを開きます。
2. サービスの一覧から次のサービスの状態が"実行中"であることを確認します。
 - SM_AgtSvc
 - SM_AgtProvider

環境設定画面の説明

環境設定の起動

環境設定を起動するには、「スタート」メニューに作成された「Logger」の「環境設定ユーティリティ」ショートカットを実行してください。

環境設定画面

環境設定の画面について説明します。

環境設定

☐ ハードウェア障害と使用率超過をイベントログに記録する

通知レベル

☐ 情報 ☒ 警告 ☒ 障害

使用率監視の設定

☐ CPUの使用率を監視する

しきい値 30 % (10～100)

サンプリング間隔 10 秒 (1～86400)

サンプリング回数 10 回 (1～1000)

☐ メモリの使用率を監視する

しきい値 80 % (40～100)

サンプリング間隔 10 秒 (1～86400)

サンプリング回数 10 回 (1～1000)

☐ ディスクの使用量を監視する

しきい値 詳細設定...

サンプリング間隔 60 秒 (1～86400)

サンプリング回数 10 回 (1～1000)

OK キャンセル

ハードウェア障害と使用率超過をイベントログに記録する チェックボックス

Logger の機能を有効または無効にする設定項目です。

チェックが入っている状態では、システム装置(BMC)の定期監視による障害検出、ハードウェア資源の使用率超過検出を行ない、アラートをイベントログへ記録します。初期設定は、チェックが入っていない状態です。

通知レベル エリア

イベントログにアラートを記録する対象となるアラートレベルを設定するエリアです。ハードウェア障害と使用率超過をイベントログに記録するチェックボックスにチェックが入っている場合のみ、設定できます。

項目	説明
情報チェックボックス	情報レベルのアラート検出時に、イベントログに記録するための設定項目です。情報レベルのアラートをイベントログに記録する場合は、チェックを入れてください。初期設定はチェックが入っていない状態です。
警告チェックボックス	警告レベルのアラート検出時に、イベントログに記録するための設定項目です。警告レベルのアラートをイベントログに記録する場合は、チェックを入れてください。初期設定はチェックが入っている状態です。
障害チェックボックス	障害レベルのアラート検出時に、イベントログに記録するための設定項目です。障害レベルのアラートをイベントログに記録する場合は、チェックを入れてください。初期設定はチェックが入っている状態です。

・・・
補足

使用率監視の設定エリアで CPU、メモリ、ディスクに対して使用率監視を有効にする場合、警告チェックボックスは必ずチェックが入っている状態にしてください。

使用率監視の設定 エリア

CPU、メモリ、ディスクに対して使用率監視の設定をするエリアです。ハードウェア障害と使用率超過をイベントログに記録するチェックボックスにチェックが入っている場合のみ、設定できます。

項目	説明
CPU の使用率を監視するチェックボックス	CPU の使用率を監視するための機能を有効または無効にする設定項目です。チェックが入っている状態では、CPU の使用率を監視するためのしきい値、サンプリング間隔、サンプリング回数の各テキストボックスを設定できます。初期設定はチェックが入っていない状態です。チェックが入っていない場合は、CPU の使用率を監視しません。
しきい値テキストボックス (CPU)	CPU の使用率超過を判定するしきい値を設定します。CPU の使用率を監視するチェックボックスにチェックが入っている場合のみ、設定できます。10～100(%)の値が設定可能です。初期設定は 30(%)です。

項目	説明
サンプリング間隔テキストボックス(CPU)	CPUの使用率をチェックする間隔を設定します。 CPUの使用率を監視する チェックボックスにチェックが入っている場合のみ、設定できます。 1～86400(秒)の値が設定可能です。初期設定は 10(秒)です。
サンプリング回数テキストボックス(CPU)	CPUの使用率をチェックする回数を設定します。 CPUの使用率を監視する チェックボックスにチェックが入っている場合のみ、設定できます。 1～1000(回)の値が設定可能です。初期設定は 10(回)です。
メモリの使用率を監視するチェックボックス	メモリの使用率を監視するための機能を有効または無効にする設定項目です。チェックが入っている状態では、メモリの使用率を監視するための しきい値、サンプリング間隔、サンプリング回数 の各テキストボックスを設定できます。 初期設定はチェックが入っていない状態です。チェックが入っていない場合は、メモリの使用率を監視しません。
しきい値テキストボックス(メモリ)	メモリの使用率超過を判定するしきい値を設定します。 メモリの使用率を監視する チェックボックスにチェックが入っている場合のみ、設定できます。 40～100(%)の値が設定可能です。初期状態は 80(%)です。
サンプリング間隔テキストボックス(メモリ)	メモリの使用率をチェックする間隔を設定します。 メモリの使用率を監視する チェックボックスにチェックが入っている場合のみ、設定できます。 1～86400(秒)の値が設定可能です。初期状態は 10(秒)です。
サンプリング回数テキストボックス(メモリ)	メモリの使用率をチェックする回数を設定します。 メモリの使用率を監視する チェックボックスにチェックが入っている場合のみ、設定できます。 1～1000(回)の値が設定可能です。初期設定は 10(回)です。
ディスクの使用率を監視するチェックボックス	ディスクの使用率を監視するための機能を有効または無効にする設定項目です。チェックが入っている状態では、ディスクの使用率を監視するための しきい値詳細設定ボタン と サンプリング間隔、サンプリング回数 の各テキストボックスを設定できます。 初期設定はチェックが入っていない状態です。チェックが入っていない場合は、ディスクの使用率を監視しません。
しきい値詳細設定 ボタン	ディスクの使用率超過を判定するしきい値を設定します。 ディスクの使用率を監視する チェックボックスにチェックが入っている場合のみ、設定できます。 詳細設定ボタン をクリックすると ディスク使用率監視のしきい値設定画面 (P.3-6)が表示されます。
サンプリング間隔テキストボックス(ディスク)	ディスクの使用率をチェックする間隔を設定します。 ディスクの使用率を監視する チェックボックスにチェックが入っている場合のみ、設定できます。 1～86400(秒)の値が設定可能です。初期状態は 60(秒)です。
サンプリング回数テキストボックス(ディスク)	ディスクの使用率をチェックする回数を設定します。 ディスクの使用率を監視する チェックボックスにチェックが入っている場合のみ、設定できます。 1～1000(回)の値が設定可能です。初期設定は 10(回)です。
OK ボタン	各項目の設定値を保存にする場合、このボタンをクリックして終了します。 OK ボタンをクリックして環境設定を終了すると Logger の各サービスが再起動します。
キャンセルボタン	設定した内容をキャンセルする場合、このボタンをクリックして終了します。

ディスク使用率監視のしきい値設定画面

項目	説明
ドライブ リストボックス	使用率を監視するドライブを選択します(複数選択はできません)。ドライブを選択後、 使用率を監視する チェックボックス、 しきい値 テキストボックスの設定を変更して、ドライブの使用率監視を有効にします。初期状態はすべてのドライブに対してチェックが入っていない状態です。また、任意のドライブをダブルクリックすると、 しきい値 テキストボックスが初期状態 80(%)で 使用率を監視する チェックボックスにチェックが入ります。
使用率を監視するチェックボックス	選択したドライブの使用率を監視するために有効または無効にする設定項目です。初期状態はチェックが入っていない状態です。
しきい値テキストボックス	選択したドライブの使用率超過を判定するしきい値を設定します。 使用率を監視する チェックボックスにチェックが入っている場合のみ、設定できます。40~100(%)の値が設定可能です。初期状態は 80(%)です。
設定するボタン	各ドライブの使用率を監視するため、 使用率を監視する チェックボックスやしきい値テキストボックスの設定を変更した場合は、このボタンをクリックして設定を有効にします。
OK ボタン	各ドライブの使用率を監視するための設定項目を保存する場合、このボタンをクリックして終了します。設定を変更したドライブに対して、 設定する ボタンをクリックしていない場合、 OK ボタンをクリックしても有効になります。
キャンセルボタン	各ドライブの使用率を監視するための設定した項目をキャンセルする場合、このボタンをクリックして終了します。複数のドライブに対して使用率監視の設定をしても、 キャンセル ボタンをクリックするとすべての設定が無効になります。



付録

この付録では、メッセージについて説明します。

- [アラート一覧](#)
- [メッセージ一覧](#)
- [サービス一覧](#)
- [インストールフォルダ構成](#)
- [アラート再通知発生時の対応](#)

アラート一覧

Logger がイベントログに出力するアラートと対処方法について説明します。

アラート ID とメッセージ

イベントログに出力するメッセージの一覧を次に表記します。
システム装置の機種に依存するアラートについては、HCSM アラート一覧表を参照してください。

ID (16 進表記)	レベル	メッセージ	対処
64000 (0xFA00)	警告	CPU<d>の使用率がしきい値<d>%に達しました。現在<d>%です。	システム構成、またはしきい値の設定内容を見直してください。
64001 (0xFA01)	警告	メモリの使用率がしきい値<d>% (<d>Kbyte/<d>Kbyte)に達しました。現在<d>%(<d>Kbyte/<d>Kbyte)です。	システム構成、またはしきい値の設定内容を見直してください。
64002 (0xFA02)	警告	<s> ドライブの使用率がしきい値<d>%(<d>Kbyte/<d>Kbyte) に達しました。現在<d>%(<d>Kbyte/<d>Kbyte)です。	システム構成、またはしきい値の設定内容を見直してください。
64016 (0xFA10)	警告	SEL データベースファイルへのアクセス中にエラーが発生しました。通知済みの障害情報が再度通知される可能性があります。	付録の アラート再通知発生時の対応 (P.A-7)を参照して対処してください。
64017 (0xFA11)	警告	<s>機能が動作していません。	メッセージに出力された<s>機能のサービスが動作しているか確認してください。サービスが動作していない場合はサービスを再起動してください。 再発する場合は、お問い合わせ窓口に連絡してください。※0xFA12 のアラートが本アラートの後に通知されている場合は回復しているので対処の必要はありません。
64018 (0xFA12)	情報	<s>機能が回復しました。	対処は必要ありません。
64019 (0xFA13)	障害	<s>サービスの再起動に失敗しました。(<d>)	SM_AgtSvc および SM_AgtProvider サービスを再起動してください。
64020 (0xFA14)	警告	SelManager サービス、PltDrv ドライバが起動中または無効でないためサービスを停止します。	SEL Manager サービス、PltDrv ドライバを停止および無効化したあとに Logger を再起動してください。
64021 (0xFA15)	情報	処理済みのシステムイベントログを再検出しました。	保守用のメッセージです。対処の必要はありません。
64022 (0xFA16)	警告	障害情報読み込み処理でエラーが発生したため、ハードウェア障害監視ができない状態にあります。	システム装置を再起動してください。再起動後も現象が発生する場合は、お問合せ先までご連絡ください。
64023 (0xFA17)	警告	IPMI ドライバのアクセスに失敗しました。	IPMIDRV ドライバが動作しているか確認してください。ドライバが動作していない場合はドライバ起動後に Logger を再起動してください。

メッセージ一覧

Logger が出力するメッセージ一覧について説明します。

インストーラのメッセージ一覧

Logger のインストーラが出力するメッセージの一覧を次に表記します。

メッセージ	意味	対処
セットアップは、インストールを実行するために必要な、ファイル<s> が見つかることができません。	必要な DLL ファイルをロードできない。	再実行してください。再度現象が発生する場合は、お問合せ先までご連絡ください。
<s>以下に、ディレクトリを作成できません。このディレクトリに対する書き込みアクセス権をチェックしてください。	インストール実行中にディレクトリの作成に失敗した。	再実行してください。再度現象が発生する場合は、お問合せ先までご連絡ください。
ファイル転送エラー。インストール先位置を確認し、再度実行してください。 エラー番号:<d>	インストール実行中にディスクへのアクセスに失敗した。	再実行してください。再度現象が発生する場合は、お問合せ先までご連絡ください。
ファイル <s> の アクセス 中にエラーが発生しました。	ファイルのアクセス（シーク）に失敗した。	再実行してください。再度現象が発生する場合は、お問合せ先までご連絡ください。
ファイル <s> の リード 中にエラーが発生しました。	ファイルの読み出しに失敗した。	再実行してください。再度現象が発生する場合は、お問合せ先までご連絡ください。
ファイル <s> の クローズ 中にエラーが発生しました。	ファイルのクローズでエラーが発生した。	再実行してください。再度現象が発生する場合は、お問合せ先までご連絡ください。
<s> には、インストールに必要な <d> バイトの空き領域がありません。空き領域を確保するか、インストール先ディスク(ドライブ)を変更してください。	指定されたインストール先のドライブの空き容量が不足している。	インストール先の空き容量を増やすか、インストール先のドライブを変更して再実行してください。
指定のインストール先ドライブが見つかりません。セットアップを中止します。	指定されたインストール先のドライブが見つからない。	インストール先のドライブを変更して再実行してください。
インストール先ドライブの容量が不足しています。セットアップを中止します。	アップデート時に指定されたインストール先のドライブの空き容量が不足している。	インストール先の空き容量を増やすか、インストール先のドライブを変更して再実行してください。
ファイル<s> の オープン 中にエラーが発生しました。	ファイルがオープンできない。	再実行してください。再度現象が発生する場合は、お問合せ先までご連絡ください。
アドミニストレータ権限のあるユーザでインストールしてください。	アドミニストレータ権限のないユーザでインストーラを起動した。	アドミニストレータ権限のあるユーザで再度実行してください。
本プログラムは<s>では動作しません。	未対応の OS でインストーラを起動した。	サポート OS でインストーラを実行してください。
更新インストール時にインストール先ディレクトリを変更することはできません。	更新インストール時にインストールフォルダを変更した。	更新インストール時は、インストール先を変更しないでください。
更新インストール時にプログラム フォルダを変更することはできません。	更新インストール時にプログラム フォルダを変更した。	更新インストール時は、プログラムフォルダを変更しないでください。

メッセージ	意味	対処
インストール先ディレクトリは 170 バイト以内にしてください。	インストールするパスが長すぎる。	インストールするパス長を 170 バイト以内に設定してください。
<s>が既に存在します。 本製品のアンインストール時に<s>ディレクトリ内のファイルがすべて削除されます。 インストール先を変更するか、Logger ディレクトリが不要な場合は削除してから続行してください。	インストール先に指定したパス<s>が既に存在している。	インストール先を変更するか、Logger ディレクトリが不要な場合は削除してから続行してください。
JP1/ServerConcutor/Blade Server Manager または JP1/ServerConcutor/Agent がインストールされているため本製品をインストールできません。 インストールを終了します。	JP1/ServerConductor 製品がインストールされているため、インストールできない。	Logger をインストールする場合は、JP1/ServerConductor 製品をアンインストールしてください。

アンインストーラのメッセージ一覧

Logger のアンインストーラが出力するメッセージの一覧を次に表記します。

メッセージ	意味	対処
アドミニストレータの権限のあるユーザで実行してください。	アドミニストレータ権限のないユーザでアンインストーラを起動した。	アドミニストレータ権限のあるユーザで再度実行してください。
JP1/ServerConductor/Blade Server Manager がインストールされています。 本製品をアンインストールすると JP1/ServerConductor 製品も同時にアンインストールされます。 アンインストールを続行しますか？	同一装置に JP1/ServerConductor 製品がインストールされている。	JP1/ServerConductor 製品も含めてアンインストールして構わなければ、処理を続行してください。現状のまま JP1/ServerConductor 製品をご使用になる場合は、アンインストールせずにそのままご使用ください。
PltfDrv ドライバ、SelManager サービスの設定変更に失敗しました。 PltfDrv ドライバと SelManager サービスを手動で起動してください。	インストール時に記憶した PltfDrv ドライバ、SelManager サービスの動作設定を元に戻すことができない。	SEL Manager 取扱説明書を参照して、ドライバおよび、サービスを起動してください。

環境設定のメッセージ一覧

Logger の環境設定が出力するメッセージの一覧を次に表記します。

メッセージ	意味	対処
アドミニストレータ権限のあるユーザで実行してください。	環境設定を起動したユーザがアドミニストレータ権限を持っていません。	アドミニストレータ権限のあるユーザで再度実行してください。
レジストリのオープンに失敗しました。 (Err=<d>, <d>)	設定情報の読み込みまたは書き込みのためのレジストリキーのオープンに失敗した。	再実行してください。再度現象が発生する場合は、お問合せ先までご連絡ください。
レジストリ情報の取得に失敗しました。 (Err=<d>, <d>)	レジストリから設定情報の読み込みに失敗した。読み込みに失敗した項目についてはデフォルト値が表示されます。	以前にデフォルト以外の値を設定していた場合は、設定値の再入力を実施してください。デフォルト値のまま運用している場合は、対処の必要はありません。
レジストリ情報の書き込みに失敗しました。 (Err=<d>, <d>)	設定内容のレジストリへの書き込みに失敗した。	再実行してください。再度現象が発生する場合は、お問合せ先までご連絡ください。
以下の項目で範囲外の値が設定されています。 ・ CPU 使用率：しきい値 ・ CPU 使用率：サンプリング間隔 ・ CPU 使用率：サンプリング回数 ・ メモリ使用率：しきい値 ・ メモリ使用率：サンプリング間隔 ・ メモリ使用率：サンプリング回数 ・ ディスク使用率：サンプリング間隔 ・ 使用率：サンプリング回数 (実際は、設定に誤りがある項目のみ表示されます。)	表示された項目に範囲外の値が設定された。	表示された項目に対して、有効範囲内の値を設定してください。
ディスクの使用率監視でしきい値が設定されているドライブがひとつもありません。現在の設定内容を適用しますか？	ディスクの使用率を監視する チェックボックスのチェックを入れているが、しきい値設定しているドライブがひとつもないため、この設定を適用してもディスクの使用率監視は動作しない。	ディスクの使用率監視をする場合は、 しきい値詳細設定 ボタンを押して、使用率監視を実施するドライブにしきい値を設定してください。
しきい値には 40 から 100 までの値を設定してください。	ディスク使用率のしきい値に範囲外の値が設定された。	ディスク使用率のしきい値に対して、有効範囲内の値を設定してください。

サービス一覧

Logger に関するサービスの一覧です。

サービス名	プロセス名(子プロセス名)	機能
SM_AgtSvc	Smsvc.exe(SmAgent.exe)	サーバ状態の監視
SM_AgtProvider	SmAgtProvider.exe(なし)	ハードウェア状態の監視
SM_GetCpuSvc	SmGetCpu.exe(なし)	CPU 使用率超過の監視

インストールフォルダ構成

Logger のフォルダ構成について説明します。

<Logger のインストール先フォルダ>

```
+--Data
|   +--Maps
|   +--SSMP
+--Log
+--MainteTool
|   +--bin
+--PROGRAM
+--tool
    +--HsmBin
    +--ipmicmd
    +--Others
    +--Results
    +--UsrBin
```

アラート再通知発生時の対応

過去に発生したハードウェア障害をアラート通知することがあります。

アラート ID : 64016(0xFA10)がイベントログに通知された場合は、次の手順を実行して再通知の発生を防止する対応をしてください。

1. SM_AgtSvc、SM_AgtProvider の各サービスを停止します。

次の方法でサービスプログラムを停止してください。

- ・ コマンドラインで次のコマンドを実行する。

```
> net stop sm_agtsvc  
> net stop sm_agtprovider
```

2. SM_AgtSvc、SM_AgtProvider の各サービスが停止状態であることを確認します。

次の方法でサービスプログラムが停止状態であることを確認してください。

- ・ コマンドラインで下記のコマンドを実行し、出力結果に"SM_AgtSvc"、"SM_AgtProvider"がないことを確認します。

```
> net start
```

3. Windows エクスプローラで以下の SEL データベースファイルを削除します。

< Logger インストール先フォルダ (※) > \Log\SEL*.db

※デフォルトのインストールフォルダは、64bit OS の場合、"C:\Program Files (x86)\Hitachi\Logger"、32bit OS の場合、"C:\Program Files\Hitachi\Logger"です。
SEL*.db の"*"部分は、16 進数文字列の可変値を表します。

4. SM_AgtSvc、SM_AgtProvider の各サービスを開始します。

次の方法でサービスプログラムを開始してください。

- ・ コマンドラインで次のコマンドを実行する。

```
> net start sm_agtprovider  
> net start sm_agtsvc
```

5. SM_AgtSvc、SM_AgtProvider の各サービスが開始状態であることを確認します。

手順 2.と同じ方法で、出力結果に"SM_AgtSvc"、"SM_AgtProvider"があることを確認してください。



頭字語と略語

BIOS	Basic Input/Output System
BMC	Baseboard management controller
EFI	extensible firmware interface
IPMI	Intelligent Platform Management Interface
OS	Operating System
URL	Uniform Resource Locator

 株式会社 日立製作所
ITプラットフォーム事業本部

〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下1番地

<http://www.hitachi.co.jp>